

日本脳炎予防接種を受ける方へ（予防接種説明書）

日本脳炎の概要について（厚生労働省ホームページより）

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。

以前は子どもや高齢者に多くみられた病気です。突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こす病気で、後遺症を残すことや死に至ることもあります。

予防接種は体調のよい時に受けることが原則です。

気にかかることがあれば、かかりつけ医に相談のうえ接種するか否かについて決めてください。

予防接種を受けることができない場合

- 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）している場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- 予防接種の接種液に含まれる成分でアナフィラキシー（※）を起こしたことがある場合
※「アナフィラキシー」とは通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、おう吐、声が出にくい、息苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。
- その他、医師が不適当な状態と判断した場合

予防接種を受ける際に注意を要する場合

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている場合
- 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた場合及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた場合
- 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことのある場合
- 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合
- 予防接種の接種液に含まれる成分でアレルギーを起こすおそれがある場合

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。この間に、急な副反応が起こることがまれにあります。
- 接種後、4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 当日は、はげしい運動は避けましょう。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

日本脳炎ワクチンについて（厚生労働省ホームページより）

●効果について

ワクチン接種により、日本脳炎の罹患リスクを 75～95% 減らすことができると報告されています。

●副反応について

生後6か月以上 90 か月（7歳半）未満の小児で、以下の副反応が認められたとされています。

主なものは発熱、せき、鼻水、注射部位の紅斑や腫れ、発疹などで、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられています。なお、ごくまれにショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応がみられることがあります。

定期予防接種により、健康被害が生じたものと厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済制度の給付の対象となります。